とよ・たち

美肌通信

11月号

さんがくくん ㊙

Vol 16

院長の頁

10月のある日、当クリニックに定期的に受診して下さっている小学生の男の子（彼は目がクリッとしていて、睫毛が長い）が診察室に一枚の自作の絵を持ってきて下さいました。彼はそれを私に見せこう言いました。"『とよ・たち』に載せて欲しい！"

それを聞いたとたん私の心はパッと明るくなり、こう申し上げました。「もしよければ11月号の表紙として使わせて頂けないでしょうか？」その答えはOKでした。

彼が快諾して下さる際、隣におられた母親を見つめてニッコリと微笑み、次の瞬間コクッとうなづいてくれた時の笑顔が私にはとてもうれしく思えました。

「お名前どうしましょうか？」と私が尋ねると彼は、少しハニカンでペンネームで…、ということに落ちつきました。

私は彼にとても感謝しております。なぜなら私のアイデアで開業以来継続してきた「とよ・たち美肌通信」が患者様に認知して頂けた様な気がしたからです。

もし、皆様の中で次号12月号の表紙を描いてもいいよ〜!!という患者様がいらっしゃいましたら、院長又はスタッフまでお気軽にお声をおかけ下さります様お願い申し上げます。ちなみに1ヶ月で約1000部を当院で印刷し患者様に配布させて頂いております。

ちょっと一言　先日、ある朝私が開院前に正面玄関の掃き掃除をしていたら、ドアのガラスに"アマガエル"がくっついていました。それを払い落とそうとした時、女性の患者様が『先生の所は患者だけでなくカエルまで来てくれるんだねー。このカエルも私達患者を迎えて(ムカエル)くれてるんだねー』とおっしゃって下さいました。私が払い落とそうとしたカエル、私は何て小さい人間なのか!! 一方、患者様のおっしゃられたその一言、何て徳のある そして「物事は心一つの置きどころ」なのだと思い、カエルを払い落とそうとした自分の未熟さを情けなく思うと同時に、「カエルさん、ごめんなさい。あなたも当クリニックのスタッフの一員として患者様を迎えて下さっていたのですねと反省したのでした。